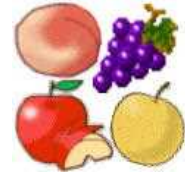




平成28年度 果樹情報 第12号

(平成28年9月7日)

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (8月後半：果樹研究所)

平均気温は、平年と比較すると4半旬が26.5℃で1.7℃高く、5半旬が26.5℃で1.7℃高く、6半旬が23.5℃で0.9℃低く経過しました。

この期間の降水量は217.5mmで平年の257%でした。

2 生育概況

(1) 果実肥大 (9月1日現在)

なしの暦日比較では、「豊水」は縦径108%、横径110%と平年より大きく、満開後日数による比較においても平年より大きい状況です。

りんごの暦日比較では、「ふじ」は縦径106%、横径108%と平年より大きく、満開後日数による比較においても平年より大きい状況です。

表1 主要品種の果実肥大(暦日比較 果樹研究所9月1日調査)

果実肥大	なし		りんご	
	豊水		ふじ	
	縦径	横径	縦径	横径
実測値(mm)	79.2	92.7	75.8	84.4
平年比(%)	108	110	106	108

(2) もも

ア 収穫期と果実品質

「川中島白桃」の収穫盛は8月17日で平年より10日早まりました。

「ゆうぞら」の収穫始は8月16日、収穫盛は8月20日で平年より15日早まりました。果実の大きさは355gと平年より大きく、RM示度は14.0と平年より高い果実品質でした。

表2 ももの主要品種の収穫期と果実品質

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			平均果重(g)			RM示度		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
あかつき	7/21	8/ 2	7/21	7/24	8/ 5	7/24	7/28	8/10	7/30	257	265	270	13.0	12.6	13.0
まどか	8/ 2	8/10	8/ 3	8/ 5	8/14	8/ 6	8/10	8/19	8/10	377	333	357	14.6	13.2	14.3
川中島白桃	8/15	8/24	8/13	8/17	8/27	8/16	8/22	8/31	8/20	434	333	385	15.0	12.8	13.3
ゆうぞら	8/16	8/31	8/18	8/20	9/ 4	8/21	8/25	9/ 9	8/27	355	324	346	14.0	12.7	12.9

※ 平年値：1986～2015年の平均値

(3) なし

ア 「豊水」の成熟経過

満開後135日(8月29日)における成熟調査の結果は、果実硬度が6.1ポンドで平年より高く、果皮中クロロフィル含量は6.2μg/cm²で平年より多く、RM示度は12.0で平年並でした。

表3 「豊水」の成熟経過

調査日 (満開後日数)	硬度			蜜入り			地色		
	本年 lbs.	平年 lbs.	平年比 %	本年	平年	平年比 %	本年	平年	平年比 %
8月19日 (125)	6.9	6.6	104	2.2	1.3	165	1.8	2.0	91
8月24日 (130)	6.1	6.0	102	2.5	1.5	162	2.4	2.3	102
8月29日 (135)	6.1	5.5	111	2.4	1.6	143	2.7	2.6	103

調査日 (満開後日数)	RM示度			リンゴ酸含量			クロロフィル含量		
	本年	平年	平年比 %	本年 %	平年 %	平年比 %	本年 μg/cm ²	平年 μg/cm ²	平年比 %
8月19日 (125)	11.5	11.6	99	0.15	0.14	106	8.47	7.92	107
8月24日 (130)	11.8	11.9	99	0.15	0.15	104	7.57	6.89	110
8月29日 (135)	12.0	12.1	99	0.15	0.15	100	6.20	5.72	109

※ 平年値：1991～2015年の平均値

- ※ 蜜入り指数 1：果実の切断面全体が白っぽく水浸状がほとんど気にならないもの。
 2：果皮直下の部分がわずかに水浸状を示しているように見えるもの。
 3：水浸状を示している部分が広く、果皮直下では水浸状部の境界が比較的はつきりしているもの。
 4：果実切断面の大部分が比較的はつきりした水浸状を示しているもの

(4) りんご

ア 「つがる」の収穫期と果実品質

収穫盛は8月25日で平年より9日早く、成熟日数は124日で平年より1日短くなりました。

果実品質は、果実重が279g（平年比98.2%）、RM示度は13.0、果肉硬度は11.1ポンドで、平年と比較して果実重と糖度は同程度、果肉硬度はやや低い果実品質でした。

表4 「つがる」の収穫期と果実品質

	開花盛 月日	収穫始 月日	収穫盛 月日	収穫終 月日	成熟日数 日	果実重 g	RM示度 ° Brix	リンゴ酸 %	硬度 lbs.
平成28年	4/23	8/22	8/25	-	124	279	13.0	0.21	11.1
平成27年	4/25	8/17	8/21	8/25	118	252	14.7	0.25	12.9
平成26年	4/29	8/22	8/28	9/2	121	262	12.2	0.23	11.8
平 年	5/ 1	8/28	9/ 3	9/ 7	125	284	12.7	0.24	11.7

※ 平年値：1981～2015年の平均値、成熟日数：満開日～収穫盛までの日数

(5) ぶどう

ア 収穫期と果実品質

「巨峰」（有核栽培）の収穫始は8月24日で、平年より10日早まりました。「巨峰」（無核栽培）の収穫始は8月29日で、平年より9日早まりました。また、「高尾」の収穫始は、8月29日で平年より13日早まりました。

収穫果の果実品質は、「巨峰」（有核栽培）では果皮色（カラーチャート指数）、RM示度、酒石酸含量は平年よりやや低く、糖酸比は平年並でした。「巨峰」（無核栽培）では、果皮色、RM示度は平年よりやや低く、酒石酸含量は平年よりやや高く、糖酸比は平年より低い果実品質でした。「高尾」はRM示度、酒石酸含量は平年よりやや高く、糖酸比は平年よりやや低い果実品質でした。

表5 「巨峰」、「高尾」の収穫期と果実品質

栽培方法	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
巨峰(有核栽培)	8/24	9/3	8/20	8/26	9/10	8/29	8/29	9/16	9/2
巨峰(無核栽培)	8/29	9/7	8/24	8/29	9/11	8/30	8/29	9/17	9/2
高尾	8/29	9/11	8/28	8/29	9/16	9/11	8/29	9/20	9/5

栽培方法	果皮色			RM示度			酒石酸			糖酸比		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
巨峰(有核栽培)	9.7	10.2	9.8	18.6	19.2	17.9	0.49	0.53	0.44	38.1	38.0	40.3
巨峰(無核栽培)	9.0	9.6	8.4	15.8	16.7	16.0	0.58	0.52	0.53	27.0	34.4	30.2
高尾	—	—	—	19.4	19.0	18.5	0.55	0.48	0.44	35.5	40.8	42.1

※ 平年値：「巨峰」（有核栽培）及び「高尾」は1988年～2015年の平均値

「巨峰」（無核栽培）は1998年～2015年の平均値

3 栽培上の留意点

(1) もも

ア 台風通過後の事後対策

8月の月間降水量は295mm（平年比191%）とかなり多く、土壌は現在過湿状態にあります。土壌の過湿状態が続く場合、ももでは早期落葉が起こり、今後、貯蔵養分の蓄積への影響が懸念されます。このため、最近の連続降雨により園内に停滞水が見られる場合には、明きよを掘るなどして積極的な排水に努め、樹体の健全な状態を確保しましょう。

イ 秋肥の施用

収穫後、9月のできるだけ早い時期に秋肥を施用し、樹勢の回復と貯蔵養分の蓄積に努めましょう。秋肥は尿素を中心に速効性肥料を用い、窒素成分で7kg/10a程度（あかつき：中肥沃度地帯の場合）を施用します。なお、樹勢の低下が見られる樹では分肥し、窒素成分で秋肥を6～7割程度、春肥を3～4割の施用量とします。

表6 ももの施肥基準

地帯区分	品 種	目標収量 (kg/10a)	施肥量 (kg/10a)					
			N				P ₂ O ₅	K ₂ O
			秋肥	冬肥	春肥	追肥	冬肥	
肥沃度中	日川白鳳・暁星	2,400	5	5	2	—	10	12
	あかつき	2,600	7	5~7	2	—	10	12
	川中島白桃・ゆうぞら	3,000	8	6~8	2	—	10	12
肥沃度高	日川白鳳・暁星	2,400	5	5	—	—	10	12
	あかつき	2,600	7	5	—	—	10	12
	川中島白桃・ゆうぞら	3,000	8	6	—	—	10	12
流亡程度大	日川白鳳・暁星	2,400	5	—	4	2	10	12
	あかつき	2,600	7	—	4	2	10	12
	川中島白桃・ゆうぞら	3,000	8	—	4	2	10	12
腐植質火山灰土	日川白鳳・暁星	2,400	7	5	—	—	10	12
	あかつき	2,600	7	5	—	—	10	12
	川中島白桃・ゆうぞら	3,000	8	6	—	—	10	12

注：土壌表面は部分草生、秋肥は9月、冬肥は11～12月、春肥は2～3月、追肥は6月。

ウ 秋季せん定

本年は、若木や強勢樹の新梢に二次伸長が見られるため、樹勢に応じたせん定方法とします。樹勢が強く徒長枝の発生が多い強勢樹では、9月中旬頃（徒長枝が太る前）を目途

に収穫が終了した品種から秋季せん定を実施し、花芽の充実と樹勢の安定化、秋期防除における葉液透過の改善を図りましょう。適勢樹では、主枝や亜主枝の生育を妨げる徒長枝を整理し、樹勢の乱れを防ぎましょう。弱勢樹では、秋季せん定を最小限とし、葉芽の多い中果枝や長果枝を多く配置することで、樹勢の回復を図りましょう。また、若木では適勢樹と同様の方法とします。

特に幼木から若木時代の冬季せん定が強せん定となると寒凍害を招きやすいため、夏季の新梢管理で残した主幹部の強勢な枝については秋季せん定時に整理し、冬季に大きな切り口を作らないように注意しましょう。

(2) なし

ア 施肥

「幸水」の収穫終了後、9月中旬頃を目安に礼肥として尿素を中心に速効性の窒素肥料をN成分で4～5 kg/10 a 施用しましょう。その他の品種（「豊水」「二十世紀」等）でも収穫が半分以上終了すれば果実品質への影響は小さいと考えられるので、できる限り早く礼肥を施用しましょう。

イ 落果防止剤の散布

「二十世紀」等落果防止剤処理が必要な品種は、剤の使用時期と他の中晩生種への飛散防止に注意しながら散布しましょう。

(3) りんご

ア 修正摘果

本年は果実の大きさや果形にバラツキがみられます。果形がわるい果実や小さい果実を中心に修正摘果を実施し、果実の大きさを揃えましょう。

イ 中生種の収穫前管理

摘葉や玉回し等の着色管理は、各品種の生育状況に合わせて行い遅れないようにしましょう。摘葉は、気温の高い日が続く場合は日焼け果の発生が懸念されるため、初めは果実に直接接触している葉を中心に軽めに行い、その後は気温の状況に応じて程度を強めて実施しましょう。

ウ 落果防止剤の散布

「ジョナゴールド」などの品種では、収穫前落果を防止するために落果防止剤を散布しましょう。なお、散布に当たっては剤の使用時期等に十分注意しましょう。

(4) ぶどう

ア 収穫における留意点

(ア) 「巨峰」の収穫適期の把握

収穫時期は、当該年の気象条件や立地条件等によって異なります。また、樹勢や着果量、房の大きさ等によっても異なるため、収穫前には必ず果皮色や食味を確認し、適期収穫を心がけましょう。

(イ) 「シャインマスカット」の収穫適期の把握

近年、栽培面積が増加している「シャインマスカット」は、「巨峰」等の紫黒色系の品種と異なり、果皮色による収穫期の判断が困難です。日当たりが良い場所は果皮が黄化しやすく、有色袋を使用している場合は緑色気味で仕上がります。収穫前に食味を確認した上で適期収穫に心がけましょう。

(ウ) 収穫時の注意点

- a. 雨の日やその直後の果実は糖度が低く、日持ちも悪くなります。収穫前の2～3日が晴天で、当日も晴れている日に収穫しましょう。
- b. 収穫は、日持ちを向上させる目的で果実温度の低い早朝などに行いましょう。
- c. 主枝の先端や日当たりが良く登熟が進んだ枝の果実は成熟が早いので、優先して収穫

しましょう。

d. 果粉を落とさないために、収穫果実は穂軸を持ち、果粒には直接触らないようにしましょう。

(エ) 鳥獣害対策

近年、カラスやムクドリ、ハクビシン等による鳥獣害が増加しています。これらの鳥獣は収穫間際になって加害するため、生産者にとっては減収に加えて精神的なダメージも大きくなります。現在のところ、労力をかけずに安価な対策は無く、テグスや防鳥網、防風ネット及び電気柵の設置等により被害の軽減を図りましょう。併せて、被害果実の処理や二番果の除去等によりほ場内や周囲の環境を管理し、鳥獣を寄せ付けないようにすることが重要となります。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア りんご炭疽病、褐斑病

病虫害発生予察情報・発生予報第6号（平成28年8月31日付け）によると、炭疽病の発生量はやや多いと予測されています。中・晩生種では9月上旬に、これらに効果がある薬剤を十分量散布しましょう。

イ ももせん孔細菌病

秋期に降水量が多いと翌春に春型枝病斑の発生が多くなる傾向にあります。収穫が終了した園では降雨前の予防散布に努め、越冬病原菌密度の低下を図りましょう。

詳しくは、果樹情報特別号No. 3を参照してください。

ウ なし黒星病

秋期に冷涼多雨の気象条件が続くと翌年の伝染源となる芽への感染が増加するため、秋期防除を実施しましょう。

本病の発生が見られる園では、棚上の枝葉にも十分薬剤がかかるように、丁寧な散布を心がけましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

第6世代の防除適期は、9月3～4半旬頃になると推定されます。園地の状況を確認し、密度が高い園では越冬密度を低下させるために収穫後であっても防除を実施しましょう。

イ ナシヒメシンクイ

本種の第3世代以降はナシ果実への寄生が増加するため、「幸水」の果実被害が目立つ園では中晩生種を対象に防除を実施しましょう。また、シンクイムシ類の被害果を発見したら摘除し、水づけ等により適切に処分しましょう。

ウ カイガラムシ類

合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多く使用した園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意しましょう。

越冬虫の誘殺を目的としたバンド処理は9月下旬頃までに行いましょう。

表7 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定（平成28年8月31日現在）

今後の 気温予測	モモハモグリガ	
	第5世代 成虫盛期	第6世代 防除適期
2℃高い	9月10日	9月14日
平年並	9月10日	9月15日
2℃低い	9月13日	9月19日

注) 演算方法は三角法による。起算日：8月20日